

国際金融資本との対等な自己

黒田インターナショナルコンサルティング

黒田 毅

これらは巨大銀行が世界の金融拠点と投資環境を有し、資本の増加において支えられる西洋社会の実像を理解しなくてはならない。これらが世界の共有のルールとして存在することにおいて、同様な自己環境と行動を得ることは、世界との対等性を得ることなのである。

トップ50の金融センターへ、自己拠点を整備し、資金運用環境と顧客への資金運用を提供できるなら、世界メジャーとの対等な自己構築を実現できるのである。これらは独自ソフト資産とともに、グローバル化における現実への参加の選択として誤りでないのである。

これらは資金の確保と運用において、日本が先端産業への資金の欠乏を有することなど、世界基準という新しい趨勢への正しい判断なのである。

これら新たな技術産業は、巨大資本を基盤するため、産業が未来を得ることは、金融というライフラインを強く有する必要があるのである。

これらは既存の日本基準が完全に崩壊を有することへ、新たな世界基準における参加という選択なのである。

世界の先端産業や巨大企業の資本基盤や資本力はこれら金融資本との密接なつながりがあり、新しいマネーシステムへの転換においても、対等な金融環境の整備は必要なのである。

これらは鎖国化における現実化崩壊し、アベノミクスという新しい国際ルールへの転換が、既存現実の崩壊と新しいルールにおける市場構築を行っているのである。

経済が競争である限り、勝利と敗北があるのである。このため世界との対等な自己環境の構築は唯一生き残りを与えるのである。

さらなる未来は、より以上の資本力を基盤として、新たな技術における産業と自由経済システムにおける競争を得るのである。そのため金融というライフラインを世界と対等に行うことが、自国経済の生き残りを与えることは真実なのである。